

所沢市財政トークス

第4号「22年度当初予算」

所沢市財務部財政課発行

平成22年5月

平成22年度予算額



平成22年度所沢市の予算は一般会計・特別会計・水道・病院会計を併せて**1506億9800万2千円**です。詳しくは以下のとおりです。



(単位:千円)

会計名	当初予算額		比較	(%) 伸び率
	平成22年度	平成21年度		
一般会計	83,734,000	83,100,000	634,000	0.8
特別会計	56,255,787	56,212,100	43,687	0.1
(下水)	6,945,000	7,040,000	△ 95,000	△ 1.3
(交通)	44,800	45,400	△ 600	△ 1.3
(狭東口)	150	200	△ 50	△ 25.0
(狭山ヶ丘)	190,000	170,000	20,000	11.8
(上新井)	537	274,700	△ 274,163	△ 99.8
(国保)	31,790,000	32,473,000	△ 683,000	△ 2.1
(老保)	7,300	13,800	△ 6,500	△ 47.1
(介護)	14,357,000	13,510,000	847,000	6.3
(後期高齢)	2,921,000	2,685,000	236,000	8.8
計	139,989,787	139,312,100	677,687	0.5
水道	8,737,979	8,879,645	△ 141,666	△ 1.6
病院	1,970,236	1,847,906	122,330	6.6
計	10,708,215	10,727,551	△ 19,336	△ 0.2
合計	150,698,002	150,039,651	658,351	0.4

一般会計は平成21年度と比べ6億3400万円増えました。この主な要因は子ども手当の実施や国勢調査による増などです。子ども手当(児童手当含む)は約60億円の事業ですが、このうち従来からの児童手当分が約23億円含まれていますので、実質約37億円増えました。もし、子ども手当がなければ、平成22年度予算は平成21年度より約31億円少ない約800億円となっていました。

特別会計では国民健康保険特別会計が6億8300万円の減となっていますが、介護保険特別会計が8億4700万円の増、後期高齢者医療特別会計が2億3600万円の増となっています。



所沢市の予算について教えて

中学生の荒幡富士子さんと三富開太君が学校の授業で予算のことを勉強したので、所沢市の予算に興味を持ち、市役所に来ていろいろ質問をし、職員がそれに答えます。そのやり取りを見てください。



「ハイッ、こんにちは」

「所沢市の予算について聞きたいんですけど」

「何でも聞いてくださいね」

「こんにちはー」



「あの一、歳入と歳出ってなんですか？」

「市に入ってくるお金のことを歳入、市から出て行くお金を歳出っていいます」

「市に入ってくるお金ってどんなものなの？」

「一番わかりやすいのは税金でしょうか、市税という項目で入ってきています。」

市税	50,834,552
譲与税・交付金・地方交付税	4,705,920
分担金及び負担金・使用料・手数料	2,748,987
国・県支出金	16,183,031
市債	4,594,523
その他	4,666,987
歳入合計	83,734,000

「そっか、税金が歳入か、でも、他にもあるみたいだね」

「そうですね、税金のほかにも国や県からの補助金や市の施設を使ったときの使用料などがあります」



「市ではどんなことにお金を使っているんですか？」

1議会費	555,235
2総務費	9,405,877
3民生費	34,866,763
4衛生費	9,517,607
5労働費	88,312
6農林水産業費	295,613
7商工費	318,110
8土木費	8,141,225
9消防費	3,511,870
10教育費	9,550,517
11災害復旧費	6
12公債費	7,321,586
13諸支出金	111,279
14予備費	50,000
歳出合計	83,734,000



「2人に身近なものとしたら、通っている学校を建設したり、図書館の本を買ったり、ゴミを収集する費用だったり、他にもいろいろなことに使っています。」



「う～ん、総務費とか民生費って難しくてわからないよ」



「そうですね、本当は市の予算はもっと細かく分かれているんですけど、市が予算を発表するときは、予算の分け方の一番大きい分類で発表しています。」

「でも、よく見るとどうですか」

「あっ、教育費っていうのは学校の予算かな」

「よく気がつきましたね。教育費は学校のほかにも公民館や図書館などにも使われています。他にはどうですか」



「土木費は建設の関係かな、あと、消防費は消防署の予算だよ」



「そのとおり、土木費は道路や公園などに使われています。つまり予算は市が関わっている分野ごとに分かれていますよ」

「でも、総務費、民生費、公債費はなんなの」



「確かにちょっと判りづらいですね、詳しくご説明しましょう」

「総務費ですが、この費用の中には戸籍や住民票のための費用や、ところバスのための費用、国際交流のための費用、財産を管理するための費用が入っています。」

「ふーん、そうなんだ。次に民生費ってなんですか？」

「民生費は生活保護のための費用や、保育園のための費用、高齢者のための費用、障害者のための費用です。つまり福祉の予算です。」



「へえー、民生費は福祉のお金なんですね。わたしも保育園に通ってました。」

「それじゃあ、公債費ってなんですか？」



「公債費というのは、家庭で例えると・・・住宅ローンとか自動車ローンってわかりますか。」

「借金のことでしょ。」

「そうです、そのローン、借金を返済するお金のことを公債費といいます。」

「では、市全体の予算はいくらなんですか。」



「詳しく言いますと、予算には歳入歳出の分け方の他に一般会計、特別会計、事業会計という分け方があります。」



「なんだか難しくなってきたぞ」

「例えば、使い方によってお財布を分けていると思ってください。市民のみなさんに関係するお財布が一般会計、特定の方や特定のこのためのお財布を特別会計、水道事業や病院事業のためのお財布が事業会計です。」

「ふーん、お財布を分けているのか、でも、なんで分けておくの？」

「通常は税金として市にお金が入ってきますが、特別会計では特定の人のための事業だからその人たちが負担したお金で事業をするので、お財布が一つだと管理が大変になりますよね」

「そっか、弟のおこづかいと僕のおこづかいが一つの財布に入っていたら、使っちゃったり、使われちゃうもんね。」



「まあ、市では使っちゃうってことはないんですけど、でも、管理は大変になるので会計を分けているんです。」

「それで、市全体の予算はいくらなんですか。」



「そうでした、一般会計が 837 億 3400 万円、特別会計が 562 億 5578 万 7 千円、事業会計が 107 億 821 万 5 千円、合計で 1506 億 9800 万 2 千円です。」

「1500 億なんて、僕のおこづかいの何年分かな。想像もつかないや。」

「単位が大きすぎてわかりにくいですね、それでは、一般会計の予算額の単位を億円から万円に読み替えて、家計に見立てた、この表を見てください。」

収入				支出			
給料	平成22年度	平成21年度	差引		平成22年度	平成21年度	差引
	566万円	589万円	-23万円	食費(人件費)	229万円	230万円	-1万円
うち、基本給(市税)	(508万円)	(530万円)	(-22万円)	家族の医療費(生活保護などの扶助費)	197万円	143万円	54万円
うち、諸手当(地方消費税交付金など)	(58万円)	(59万円)	(-1万円)	ローンの返済(市債の償還)	73万円	73万円	0万円
パート収入(使用料・手数料など)	26万円	24万円	2万円	光熱水費などの雑費(物件費・補助費等)	199万円	202.6万円	-3.6万円
家族からの仕送り(国・県からの補助金等)	162万円	130万円	32万円	車や設備の修理代(維持補修費)	19.5万円	21万円	-1.5万円
ローン借入(市債)	46万円	44万円	2万円	子どもたちへの仕送り(他の会計への繰出金)	70万円	80万円	-10万円
貯金の取り崩し	27万円	34万円	-7万円	家の増改築費(公共事業など)	49万円	81万円	-32万円
その他(繰越金)	10万円	10万円	0万円	友人へ貸すお金(中小企業への貸付金など)	0.4万円	0.3万円	0.1万円
				貯金(積立金など)	0.1万円	0.1万円	0万円
合計	837万円	831万円	6万円	合計	837万円	831万円	6万円

「左が収入、右が支出の表です。先ほど説明した分野ごとの分け方ではなく、目的ごとの使われ方で表してあります。」

「給料が減っていますね。そういえば、お父さんがボーナス減ったなんて言ってたわ。」



「市の収入の 6 割を占める市税のうち、その約半分が個人市民税といわれるものなんですけど、お父さんのボーナスが減ったということは、個人市民税も少なくなるということなんです。そのため、この表では『うち、基本給（市税）』が-22 万円、実際の予算では約 21 億円が前年より減っています。」

「『家族からの仕送り』は増えているんですね。」



「これは、子ども手当のお金が国から入ってくるため、支出の『家族の医療費』のところが増えています。『家族の医療費』と言うのは家庭で例えた場合で、家族が病気になって、お医者さんに行ったら治療費は払わなければいけませんよね、市の予算では通常こういった費用のことを扶助費といいます。」

「『家族の医療費』以外はみんな減っているんだね。」



「『家族の医療費』以外にも大事な費用はたくさんあるんですが、その家庭で稼いでいる収入、給料とパート収入を併せても去年より 21 万円減っているの、家の増改築費、つまり、道路の整備事業や建物の改修工事など、市民みなさんで使うものへの支出を抑制しなければならなくなりました。」

「今年は何か新しいことはやらないんですか？」



市制施行 60 周年
子ども手当
事業仕分け

「今年の新しい事業は、なんと言っても市制施行 60 周年事業です。所沢市が市になって 60 年になるその記念事業を行います。イメージマスコットを作ったり、10 月にはNHKのど自慢の公開放送があります。その他には、子ども手当の支給が始まります。国で有名になった事業仕分けの所沢版も行います。」

「これから所沢の予算はどうなるの？」



「これは難しい質問ですね。予算額でいえば、子ども手当が来年以降全額出ることになれば、今年以上に増えることになると思います。しかしながら、収入の大半を占める給料、これを市では一般財源というんですが、この一般財源である市税は経済の影響に左右されますので、どうなるかを予想するのは大変むずかしいですね。これからは、市の人口はさほど増えないと予想されているなか、高齢者の人口割合は増えていきますので、市の予算で言えば福祉関係のお金は、ますます増えていくと考えられます。」

「少子高齢社会になる中で、市民同士で支えあっていくためには、若いみなさんが社会に出ても所沢に住み続けていただけるとありがたいですね。」

「これから僕たちががんばっていかなきゃいけないんだね。」



「もちろん、私たちの世代がお二人の世代に過大な負担を残すことがないように、市が行う事業も、今以上に細かく精査していかなければならず、市民のみなさんにはご理解とご協力をお願いしたいと思っています。」



「いろいろ勉強したね。今日はありがとうございました。」

「どういたしまして、またいつでも来てくださいね。」

今回は平成二二年度予算について中学生に説明する形で市民のみなさまにお知らせしました。日頃より「わかりやすく」を心がけているつもりですが、詳しく書くと文章が長くなり、簡単にすると専門用語を使わなければならず、「わかりやすい」とはなかなか難しいものと感じています。これからも積極的に情報発信をしてまいります。

編集後記

